

MU・KU

DIYリフォーム情報誌 創刊号
2018. Spring



むく(無垢)とは混じりものの無いことで、もともとは、仏教用語で煩惱を離れてけがれの無いことといわれている。

加工食品の多い今日、家族の健康のため無農薬野菜や無添加食品を求める生活者が増えている。

住宅はどうであろう。人を包む内装仕上げ材料は、塩化ビニル壁紙や複合フローリングなど工業量産された建築材料商品(新建材)が多く使われており、これらは高分子化学に由来する添加物が多く使われているに違いない。

DIY型リフォームは住み手の想いで造る住まいのリノベであり、建築材料は木材や単層フローリングや漆喰など、できるだけ天然材料を使いMU・KUな住まいづくりを目指している。

Contents

02	【特集】
	= なぜ、今DIYリフォームなのか =
04	DIYリフォームアドバイザー資格制度
06	DIYリフォーム事例・ワークショップ
07	Close-up = 空き家1千万戸時代 =
	適材適所 = 杉と桧 =
08	Topics
	Information

特集 ■ なぜ今、DIY型リフォームが必要なのか

コーディネートからデザインの時代

コーディネートとデザインは何が違うのでしょうか？

本来コーディネートとは各部を調整し、全体をまとめること。インテリアコーディネーターは新築の住空間(箱)内の統一性を考え、施主のニーズに沿って家具、カーテン、照明、アクセサリーなどインテリアエレメントの組み合わせを考え、美しく快適な設えをする職能で、1983年に資格制度が生まれ、20世紀末前後に住宅やインテリア業界の活性化と生活者のより豊かな暮らしづくりに貢献してきました。

コーディネートとデザインの根源的な違いは、コーディネートの対象物は工場などで量産されたインテリアエレメントなどの商品群です。一方、デザインにはモノとコトのデザインがあり、商品の組み合わせではなく、新しい空間やモノを創造することを意味しています。コトのデザインはモノを創るためのコンセプトメイクで、そのコンセプトを形に表現することがコトのデザインです。コーディネートが商品群の組み合わせに対し、住空間デザインは住空間を創る建築行為に関わることです。

広島に原爆が投下された終戦直後に我国は420万戸の住宅が不足し、住宅を早く大量につくることが重要な政策課題で、20世紀末には世界一の住宅量産化大国になりました。戦後72年の今日、住宅を取り巻く環境は大きく変貌し空き家が1000万戸を超える時代となり、これまでの新設住宅建設中心から既存住宅の良質化(リフォーム)や住替えなど住宅ストック活用推進が新しい政策課題となっています。

2000年以降に成人になった人々の世代を、ミレニアル世代とマーケティング用語で使われ、大量消費を嫌うという傾向があるといわれています。この世代に対し、ある業界紙の調査では約9割がDIYによるリフォームを行いたいと回答したという記事もあります。若い高感度生活者たちは、消費する生活から、つくり出す・つくり変える生活を希求し、既存の製品に合わせた生活から、生活(感性)に合わせた住まいづくり、つまりDIY型リフォームに関心を持ち始めています。DIY型リフォームをデザインするDIYリフォームアドバイザーは新しい時代の職能でしょう。このDIYリフォームアドバイザーに最も近い職能は、基礎的な住宅建築知識と美の創造の感性を持ち合わせ顧客対応力のあるインテリアコーディネーター達だと確信しております。

NPO住環境デザイン協会 顧問 金堀 一郎

Do It Yourself Style ECO Re-form

DIYに学ぶ エコリフォーム

～自然とつながる暮らし…無垢なものに囲まれて～

DIY型リフォームとは

DIY型リフォームとは、住まい手の意志(主導)でリフォームやリノベーション、コンバージョンの工事を行うことを意味しています。リフォームの対象が持家であっても借家であっても、戸建てであっても集合住宅であっても、住まい手の意志でリフォームを行うものはDIY型リフォームと呼びます。

DIY(Do It Yourself)は「自分でやる」との意味で他人任せにしないことです。これまでわが国では新築やリフォームを業者(専門家)任せにすることが一般的でしたが、DIY型リフォームは住まい手がかつて積極的に関わっていきましようというもので、専門業者に任せずに自らの手で自らの生活空間をより快適にするため工事に参加することです。

DIYといえば日曜大工をイメージされる方もいますが、日曜大工は本業が大工ではない人が、休日に大工仕事をするといった木工作業で、今日の住まいのDIYは壁紙張り替え、湿式塗壁、水回りの改装、LEDランプを活用した照明器具づくりなど木工作業以外のDo It Yourselfが主流になりつつあります。

「DIY女子」ということばが生まれているように「自らの手で自らの生活空間をより快適にする」というニーズが高まり、技能や作業よりアートやデザインを楽しむ、いわゆる「アーツ&クラフツ」がDIY型リフォームの真髄かもしれません。

家のまるごとDIY型でリフォームをすることも可能ですが、すべてをDIY出来るものでもありません。住宅機器の給排水の接続や電気工事については専門業者の協力も必要です。DIY型リフォームの特長は、工賃が安くなる、その分を材料代に回し、ライフサイクルの長いエコ材料でより居住性の良いプレミアムリフォームが出来ることでしょう。

借家のリフォームの場合には、貸主が修繕を行わず現状有姿のまま賃貸し(賃料を相場より安く設定)、借主が自費で修繕やDIYを行う借主負担型の賃貸借契約をDIY賃貸と呼んでいます。国土交通省ではDIY型賃貸借を「借主の意向を反映して住宅の改修を行うことができる賃貸借契約やその物件」と定義しています。

借家の場合、入居者が変わる際に、貸主が業者に委託し内装仕上げ材を張り替えるケースが多く、壁、天井などはビニル壁紙、床は複合フローリングやクッションフロアと呼ばれている長尺塩化ビニル樹脂仕上げがよく見られるようです。借主(住み手)の意志で、無垢のフローリング、自然素材の内装仕上げにリフォームが出来れば、借家(賃貸マンション)のイメージも良くなり、新しい借家市場が形成されると考えられます。

持家の場合もDIY型リフォームの知識や施工技術、メンテナンスのノウハウなどを身につけていけば、マイホームを住み心地の良い愛着の持てる住まいにリフォームが可能で、その結果資産価値も高まり、また的確なメンテナンスを自ら行うことで建物の長寿命化が図られることでしょう。



無垢の床と椅子



智頭杉を使ったブティック

- リフォーム(reform)
住宅の増改築、内部の改装
- リノベーション(renovation)
既存の建物を大規模改装して、新しい価値を加えること
- コンバージョン(conversion)
既存の建物を用途変更して再生させること

- イケア効果
マーケティング用語の一つで、「手間を掛けることにより、出来上がったものへの愛着が強まる効果」のこと。
ハーバー大学の経済学者のマイケル・J・ノートン博士らによって提唱された。



ロフトギャラリー

なぜ今、DIY型リフォームなのか

お仕着せの住まいに満足できない高感度な生活者が増えているようです。

DIYリフォームは、塩化ビニルでラッピングされたような住まいを、自然素材を用い健康で快適な癒しの空間に蘇らせることが出来、自分だけのオリジナリティを追求し、究極の贅沢で住まいをカスタマイズすることも楽しめます。

既存住宅ストックが増えている今日、既存住宅を購入し自分好みにDIYリフォームをすることにより、限られた予算内でマイホームを手に入れることも夢ではありません。

自分の好きなように造った住まいは、業者が造ったものより愛着が持てるようになるはずです。

これからの住まいは、スクラップ&ビルドではなく、既存住宅をDIYリフォームにより再生させ愛着を持って手入れをして、資産価値を高めていくことが、家族のためにも地球環境問題の視点からも重要なことです。

今、高感度生活者の中で、「自分の理想とするライフスタイルを住まいで表現したい」という欲求が膨らんでいます。また、時代背景として、

- ①新設住宅中心から、リフォームや既存住宅の流通の拡大傾向という住宅市場の変化
- ②住宅の材料や機器、施工道具・方法の進化により、素人でも割合簡単に施工ができるようになった
- ③ITやホームセンターの普及で材料や道具の入手が容易になった
- ④健康志向による自然素材や無垢木材へのウオウツの高まり
- ⑤既製品に囲まれた暮らしから自らの感性を表現したいニーズの高揚
- ⑥住環境をDIYで自分好みにしたい「イケア効果」の新しい価値観の出現
- ⑦大工や左官など建築職人が不足し賃金が高騰している

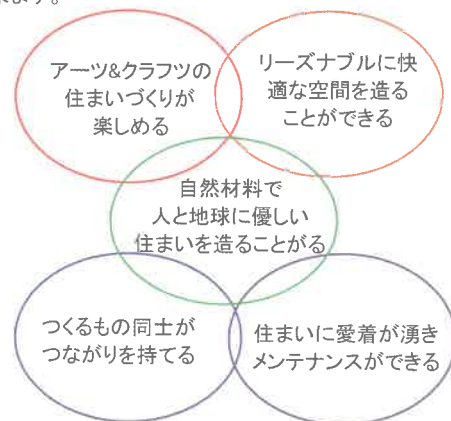
等があり、これらを複合要因としてDIY型リフォームの波が起りつつあります。

DIY型リフォームの“5つの魅力”

DIYリフォームは、アイデアとデザインで無限の可能性を秘めています。既存住宅の内装仕上げ材の多くは、壁・天井はビニル壁紙、床はポリウレタン樹脂で固められた複合フローリングが一般的です。

そうした住まいを、無垢のフローリングを張り、自然塗料で仕上げ、壁を塗壁にするなど自然素材を使いDIYリフォームを行うことで、健康的で快適なオンリーワンの住まいに変身させることができます。

DIYリフォームは、アイデアとデザインで無限の可能性を秘めています。既存住宅の内装仕上げ材の多くは、壁・天井はビニル壁紙、床はポリウレタン樹脂で固められた複合フローリングが一般的です。そうした住まいを、無垢のフローリングを張り、自然塗料で仕上げ、壁を塗壁にするなど自然素材を使いDIYリフォームを行うことで、健康的で快適なオンリーワンの住まいに変身させることができます。



■アーツ&クラフツ運動 (Arts and crafts movement)

1880年代に、イギリスで興った美術工芸運動。

産業革命により、経済が豊かになった反面、生活用品の量産化に危機感をもったラスキンの思想に、ウィリアム・モリスたちが共鳴し主導した、手づくりデザイン運動といわれている。

＝19世紀末のムーブメント＝

1. 産業革命 ……《道具から機会へ》 (18世紀後半～)
2. アーツ&クラフツ運動 ……《手工芸による美しい美》(1860～)
3. アール・ヌーボー ……《美しい芸術》 (1890～1910)
ヴィクトル・オルタ、アンリ・ヴァン・デ・ヴェルデ、エクトル・ギマール、エミール・ガレらが活躍。

DIY Re-Form Adviser

新しい資格制度発足 DIYリフォームアドバイザー®

DIYリフォームアドバイザー®

DIYリフォームアドバイザー®は、「住まいのDIY型リフォームやメンテナンスを自ら行うための基礎知識とスキルを身につけ、健康的で快適な住空間創造を願う生活者やDIY型賃貸借物件に対して、アドバイスや実践指導のできる人材」を職能の定義とします。

資格取得を希望される方は、認定講座でDIY型賃貸借や既築住宅良質化のためのDIY型リフォームの実践的基礎知識を学び、講座の最終コマで認定テストを受けることが必要です。

認定テスト合格者はNPO法人住環境デザイン協会に登録され「DIYリフォームアドバイザー®」の名称が使えるようになります。

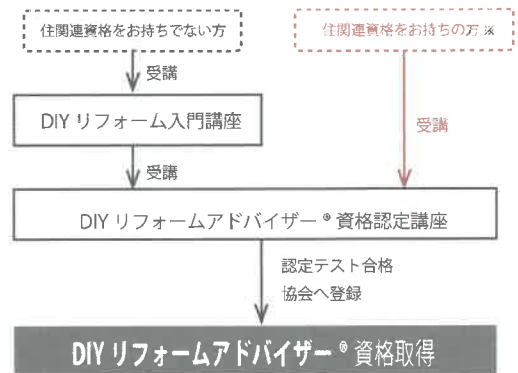
	DIYリフォーム入門講座	DIYリフォームアドバイザー®資格認定講座
時間	10:00～16:00(5時間)	9:30～16:30(6時間)
内容	DIY型リフォームの基礎知識	DIY型リフォームの実践的知識
カリキュラム	① DIY型リフォーム入門 ② DIY型リフォーム材料 ③ プランニングの演習 ④ DIY型リフォームにチャレンジ (※実践ではありません)	① DIY&DIY型賃貸借の基礎知識 ② 道具と材料の基礎知識 ③ 部位別DIY型リフォーム実践事例 ④ 住宅メンテナンスの基礎知識 ⑤ 認定テスト
受講資格	特にありません	建築士、宅地建物取引士、インテリアコーディネーター、インテリアプランナー、キッチン介着リスト、福祉住環境コーディネーター、賃貸不動産経営管理士、DIYリフォーム入門講座を履修した方
受講料	16,500円(税込)	26,000円(税込)
テキスト	DIYリフォームアドバイザー資格認定講座公式テキスト(共通) 3,240円(税込)	
認定登録料	-	8,000円

資格取得の流れ

DIYリフォームアドバイザー®は、住宅のリフォーム・リノベーションをDIY型で行うときのアドバイザーであり、住宅建築に関する基礎知識を必要とするので、資格認定講座の受講には住関連資格保有が必要となっています。

住関連資格を持っていない方は、DIYリフォーム入門講座を受講して頂く必要があります。入門講座履修者は、「DIYリフォームアドバイザー®」資格認定講座の受講資格が得られます。

資格認定テスト合格者は、NPO法人住環境デザイン協会に登録することにより「DIYリフォームアドバイザー®」資格認定証が発行されます。



※住関連資格
建築士 宅地建物取引士 インテリアコーディネーター インテリアプランナー
キッチンスペシャリスト 福祉住環境コーディネーター 賃貸不動産経営管理士

DIYリフォームアドバイザー資格認定講座 広島会場 次回ご案内

入門講座 2018年2月13日(火) 10:00～16:00
広島商工会議所ビル103号
定員:30名(先着順受付)

資格認定講座 2018年2月14日(水) 9:30～16:30
広島商工会議所ビル101号
定員:50名(先着順受付)

主催 : (一社)住環境教育協会 <http://www.juu-kyoiku.com>

<受講生の声>

- ・自然素材を活かしたリフォーム希望のお客様への提案等で活かしたい。
- ・古民家の利活用に活かしたい
- ・空室改善のコンサルに活かしたいと思う。



2017年7月21日実施

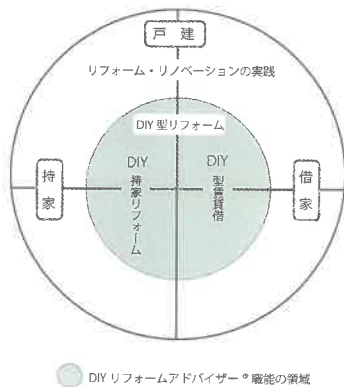


ツリーハウスの東屋

職能のイメージ

既存住宅のリフォームやリノベーションは、持家ばかりではなく、借家でもDIY型がにわかに注目され始めています。

そのため、DIYリフォームアドバイザー®が関わるDIYリフォームの対象は、持家だけでなくDIY型賃貸借の借家も含み、それぞれ戸建もマンション(集合住宅)も対象となります。



活動の可能性

- ① 持家のDIYリフォームの実践
- ② DIY型賃貸借物件のDIYリフォームの実践
- ③ DIYリフォームのアドバイス&サポート
- ④ 古民家の再生のアドバイス&サポート
- ⑤ 空き家利活用のアドバイス&サポート
- ⑥ オフィス・店舗などの改装サポート

DIYリフォームアドバイザー®の資格を取得後、技術・技能と美的感性を磨いていけば、職能人としての独立も夢ではありません。将来の活躍の場は、持家やDIY型賃貸借物件にとどまらず、増え続ける空き家の利活用やオフィス・店舗などのDIYリフォーム、古民家再生など、職能の領域はどんどん拡大することでしょう。

DIYリフォーム研究会発足

DIY型リフォームによる人と地球に優しい住まいづくりに関する調査研究とその啓発・普及を図ることを目的にDIYリフォーム研究会が発足しました。研究会はDIYリフォームアドバイザー資格者とDIY型リフォームに関する識者や材料や施工のサポーターで構成の予定で、事務局はNPO法人住環境デザイン協会内に置かれ、これから活動を開始します。

当面の活動はDIY型リフォームに関する情報などを募集した季刊誌の編集やワークショップの企画推進から始める予定です。

1970年代以降に建てられた戸建住宅の多くは外材が使われ、内装は塩化ビニルでラッピングされた新材などで造られていると云っても過言ではありません。こうした住まいを住み手の意志でつくるDIY型リフォームは国産無垢木材など自然素材で健康で快適な癒しの空間に蘇らせることも出来ます。

DIY型リフォームの対象は、左欄のように持家の戸建やマンションだけではなく、DIY型賃貸借契約での借家の戸建やマンションも含み、空き家や古民家の利活用にも有効に活かすことが出来ます。少子高齢化人口減少の時代背景からも空き家の増加はますます顕著となり、住宅ストックの資産価値を高めて利活用を推進するDIY型リフォームが大きく伸びてゆくことが予測されますので、DIYリフォーム研究会の活動は地域社会に重要な役割を担うことになることでしょう。

※ 研究会の詳細は、資格認定講座開催時にご案内します。

DIYリフォームアドバイザー資格認定講座 東京会場 次回ご案内

入門講座

2018年4月10日(火) 10:00~16:00

HIPS東京校
定員:30名(先着順受付)

資格認定講座

2018年4月11日(水) 9:30~16:30

リファレンス西新宿大京ビル2F
定員:50名(先着順受付)

<受講生の声>

・身近に増えている空き家の有効的な活用ができたと思うし、少しでもその手助けをしたい。
・営業として、お客様に新しい提案をしたい。



2017年10月18日実施

主催：(一社)住環境教育協会/(株)ハウジングエージェンシー <http://www.hips-school.jp/>

DIYリフォーム
ワークショップ

DIYリフォームワークショップは、実践技術を磨く場として多彩なプログラムが予定されています。
ホームページにて開催案内の内容を確認してください。

入門講座受講者及びDIYリフォームアドバイザー*資格認定講座受講者は、様々なDIYリフォームワークショップ(DIYリフォーム研究会企画)に参加することが出来ます。

info@juu-kyoiku.com

ワークショップ
メニュー

- ①DIY型リフォーム事例見学・研修
- ②塗り壁の実践
- ③三和土(たたき)の実践
- ④木材加工の実践
- ⑤壁塗料の実践
- ⑥床の再生(フローリングの張り方)
- ⑦壁紙の貼り方
- ⑧モザイクタイルの貼り方
- ⑨大工道具の選び方・使い方・研ぎ方
- ⑩電動道具の選び方・使い方
- ⑪古民家再生
- ⑫棚の取り付け方 etc

Work shop 事例紹介 ■ 床フローリングの上張り施工 ■

築30数年の木造2階建て住宅の子供部屋(約6畳)の傷んだ複合フローリングに、杉単層フローリング(厚さ15mm)を上張り施工をするワークショップの事例です。

《 事前調査 》

その当時では高級建材であった合板基材の上に突板をモザイクパーケット調に張った複合フローリングです。

長年の使用で、突板の一部が剥がれ、合板基材の接着力の劣化により床はぶかぶかになっている箇所ができていました。原因は基材(ラワン合板)とその接着剤(熱硬化性樹脂)の劣化が予想されます。しかし、根太はしっかりしており、部屋の出入り口の沓摺(くつづり：ドアの入り口の段差)が床面から15mmあり、上張り施工で問題なしと判断しました。

《 準備 》

- ①床の広さを測る。
- ②板の幅、長さを決める。
幅はあまり狭いと、何枚も板を貼ることになる。
あまり広いと、張り終わりの幅が調節しにくくなる。

＜お薦めの単層フローリング＞

- ・スギ単層フローリング ・クリ単層フローリング
- ・ヒノキ単層フローリング ・ナラ単層フローリング
- ・マツ単層フローリング

今回使用したのは、スギ単層フローリング
幅120mm 厚さ15mm 長さ 240mm
30枚(長さの調整、またまとめ買いと、
2〜3枚は使えない板があるので、少し多めに準備する)



《 作業工程 》

- ①別の部屋で所要寸法にカットした杉単層フローリングの裏面に木工ボンドをスポット的につけ、凸部の隅部にはめ込む。
- ②フロアネイルを金槌で固定。先に電動ドリル(キリでもOK)で穴を開けておくと、釘が固定されて失敗が少ない。
- ③あて木を使い、しっかり目地を締めながら、継ぎ手が交互の配置となるように施工する。その時に施工場所の木くずなどゴミを掃除機などで掃除しながら施工することが大切。
- ④初体験のDIYリフォーム女子を目指す5人でワークショップを行い、所要時間は5時間程度。完了後、足触りがよく杉の香りのする無垢のスギの床の部屋に変身した部屋に、お住まいのご夫婦は大満足のご様子。無垢の良さを保ち、木の表面を保護するために、自然塗料を薄く塗るとよい。



＜使った工具類＞

- ・スライド丸鋸(替え刃ノコでも可)
- ・金槌(両口玄翁)
- ・釘抜(三徳釘でも可)
- ・サンガネ(スコヤでも可)
- ・コンベックス(5.5m)
- ・センターポンチ(三徳釘でも可)
- ・NTDレesser(小型カンナでも可)
- ・木工ボンド
- ・フロアネイル
- ・鉛筆、ウエス、掃除機

Work shop 次回ご案内 ■ DIY型リフォーム事例&木材研修 ■

- 日 時 H30年 2月 2日(金) 13:30~16:00
- 場 所 エコモデル住宅(広島市安佐南区安東)
- 参加費 3,000円
- 定 員 10名(先着順)

タイ和紙の袋貼りの説明(前回)



DIY型リフォーム事例を見学しながらその施工方法や仕上げ、木材の基礎知識について学び、無垢材や自然素材による居住性を体感してください。

施工事例はDIYリフォームによるスギ、栗、イヌノキの単層フローリング張り、壁のエマルジョンペイント塗りと新築におけるセルピルドによる西洋漆喰の塗り壁、タイ和紙の袋貼り、単層フローリングのワトコオイル仕上げなどです。木材研修は、杉、桧、松、樺、檜、楠、赤檜などの適材適所を学びます。

Close-up 空き家1千万戸時代のDIYリフォームアドバイザー ～ その社会的役割

空き家が増え続けています。2013年の調査では空き家戸数が820万戸で空き家率13.5%となっていますが、現在1000万戸を超えているようです。

■なぜ増えるのか

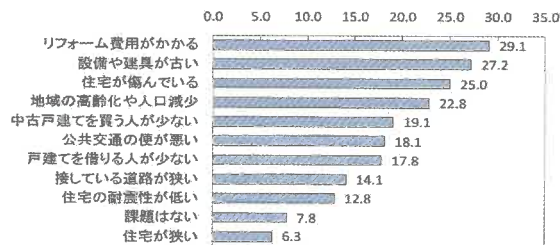
空き家が増える理由として主なポイントは以下のようなものです。

- ①新築中心の市場構造
マイホームへの憧れ、中古住宅の不人気
- ②出生率低下による人口減
売れない、貸せられない時代の到来
- ③空き家を取り壊さない
固定資産税課税制度や解体費の問題
- ④大学の都市(東京)集中
地方から都会へ出て、故郷へ帰らない人が多い
- ⑤アパートの建設ラッシュ
相続税課税制度の改定(増税)を背景に相続税対策として金融機関の勧めにより、都市部・近郊でアパートが続々建てられた

■空き家増加の問題点

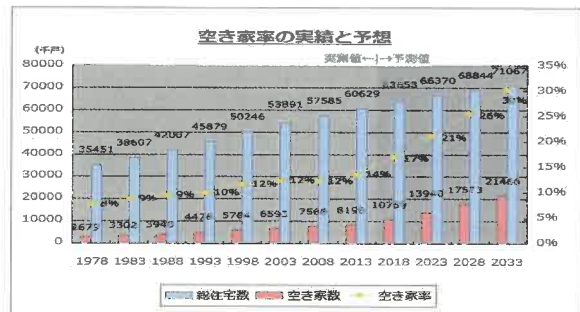
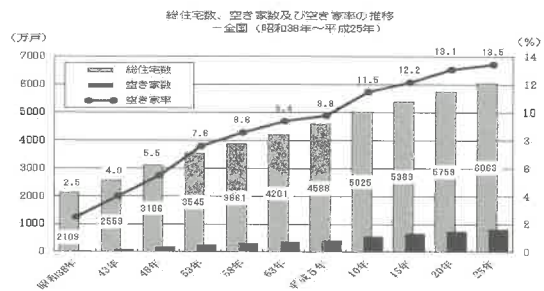
それでは空き家が増えることのような問題が発生するのか？ 環境面では、倒壊や害獣・害虫問題から来る周辺への悪影響、犯罪の増加、地震時の耐震不安がよく挙げられます。また景観上の問題もあり、結果として資産価値の低下にもつながります。特に地方部では、高齢化も相俟って空き家の連鎖が心配され、地域崩壊まで進む可能性も否定できません。

<空き家の課題>



■空き家増加抑制策

国もこのような事態を静観しているわけではなく、抑制策としてさまざまな戦略を掲げ施策を打ち出しています。また民間でも、空き家利活用に熱心な企業や団体が各地で活動し成果を挙げています。(この抑制策あるいは利活用の動きについては、次号以降で順次ご紹介する予定です)



■DIYリフォームアドバイザーの社会的役割と活躍の場

以上述べたように、空き家問題一つをとっても様々な課題が横たわっており、住宅問題は関連する分野が広いだけに今後も官民が取り組むべき大きな課題です。一方で、1980年前後に生まれたいわゆる「ミレニアル世代」を中心に高感度生活者の中から、“既製品に囲まれた暮らしから抜け出し、自らの感性を表現したい”“自分の理想とするライフスタイルを住まいで表現したい”という欲求が高まってDIYリフォームアドバイザーにはこのような多様な時代を背景として確立された資格制度で、その役割と活躍の場は、

- ①空き家の利活用に専門家として参加
- ②地域活性化の視点から移住・定住促進への貢献
- ③無垢でなければ到達できない領域の提案・・・癒される住まい
- ④既存住宅の良質化の実現
- ⑤(別稿にある)DIY型賃貸者や定期借地などの仕組みを組み合わせ、貸主借主双方にメリットのある賃貸住宅の流通促進
- ⑥新しいビジネスへのチャレンジ

などが挙げられます。DIYリフォームアドバイザーは時代を切り開き、新たな潮流を生み出し、その結果、自ら住まう地域はもちろん、住みよい国や地球環境にも貢献できる先導的役割が担える資格です。対象のすそ野は広く、可能性は無限です。

適材適所 Vol.1

杉と桧は人工林資源が充実し高齢級の森林が急増しており、木材市場への供給量が多く、DIY型リフォームの用材として最も適した木材といえます。

杉は木肌が柔らかく加工性が良く香りもいいのでフローリングや腰壁、天井などに使うと部屋の空気質が確実に良くなります。杉足場板も供給量が多く安価でアイデア次第で書棚、飾り棚、収納ボックス、ベンチなど多用途に使えます。特に赤身は耐水性があり、DIYで造るウッドデッキなどにも適しています。

桧は杉より木肌が緻密で艶をかけると光沢があり香りも良いのですが杉より高価です。

フローリングに使った場合に杉に比べ艶があり傷がつきにくい赤身と白太の明度差が大きく、節も気になるかもしれませんが、建具や造作など細かな加工には最適材といえます。

杉と桧

「国産針葉樹」

1970年代の高度経済成長と共に我国の住宅着工量が急速に拡大し、木造住宅の軸組材は国産材から米ツガ、米マツ、ホホワイトウッド等輸入材が多く使われてきたが、戦後70余年の今日では戦中戦後に植林されたスギやヒノキが次々と伐期を迎えており国産針葉樹の供給量は増加の一途にある。

国産針葉樹の主な樹種はスギ、ヒノキ、アカマツ、トドマツ、ツガ、ヒバ、モミ、サワラなどであるが、植林に適し供給量の多いのはスギとヒノキで香りも良く木肌が滑らかでこれらの無垢材を仕上げ材に使うと快適な空気質の住空間になる。



杉足場板で造った書棚とフローリング



桧の間伐材と桧板で造った△ハウス

DIYリフォーム活用セミナーを開催

2017年11月18日(土曜日)、広島市まちづくり市民交流プラザにて、住環境デザイン協会主催の「DIYリフォーム活用セミナー」を広島市の後援の下開催しました。

このセミナーは、国土交通省の補助事業である「多世代交流型住宅ストック活用促進事業」の一環として開催したもので、サブテーマとして「空き家をDIY型賃貸借で有効活用」を掲げ、増え続ける空き家の抑制・流通促進の切り札の一つとして国土交通省も進めている「DIY型賃貸借」の仕組みを空き家対策にどのように組み込んで行くかを具体的に提案するものでした。

講師は、工学博士で住環境デザイン協会の顧問でもある金城一郎が務めました。セミナーは空き家が抱える諸課題の解説に始まり、空き家や古い賃貸住宅の利活用促進策として提唱するDIY型賃貸借の概念と魅力、「DIY型賃貸借」およびこれと組み合わせる「定期借家」の解説、そしてこれらの事業を推進する人材として設けられたDIYリフォームアドバイザー*制度の概要、DIYリフォームの多様な適用・応用分野の紹介など、DIY型リフォームの活用シーンが余すところなく述べられました。

当日は定員50名に対し54名の参加があり、DIY型リフォームへの関心の高さがうかがえました。参加者の属性も、行政(住宅やまちづくり、定住促進部署)の担当者、工務店関係者、不動産事業者、大家さん、空き家所有者、自宅のリフォーム希望者など多岐に亘り、DIY型リフォームの汎用性が見てとれました。

セミナー後の参加者アンケートでも意見や提言が多く寄せられ、DIY型リフォームの普及による空き家増の抑制・流通促進への寄与、自然素材利用による環境への貢献等、今後の期待が膨らんでいることが良く表れていました。



<当日の様子>

DIYリフォーム情報誌「MU-KU」では、DIYリフォームに関する情報をお待ちしております。

問い合わせ・お送り先
info@juu-kyoiku.com

東京でDIYリフォームアドバイザー資格認定講座を開催

DIYリフォームアドバイザー資格認定講座が広島に次ぎ東京で2017年10月18日(水)に実施されました(主催:株式会社ハウジングエージェンシー/一般社団法人住環境教育協会)。東京都内や近郊のほか、福島や徳島からも参加があり、約50名が受講、認定試験に臨みました。

参加者の属性は、インテリアコーディネーター、建築士、工務店勤務、賃貸不動産経営管理士、主婦など多方面に亘り、この資格が幅広い職域・領域において期待されていると、参加された方々の真剣なまなざしからも感じられました。



トソー出版より DIYテキスト新刊のご案内

DIYリフォームアドバイザー資格認定講座の公式テキストがトソー出版から平成30年1月25日に新刊発売されます。

体裁はB5版オールカラーの320頁、定価3,000円+税
内容はDIY型リフォームに必要な基礎知識が網羅され、3部構成で第1部<基礎編>、第2部<実践編>、第3部<資料編>。

第一部の基礎編はDIYリフォーム入門講座対応のテキストにも使用され、住宅の構造と下地の基礎知識、リフォーム材料の基礎知識、寸法の基礎知識、DIYリフォームの基礎知識の4章で構成。

第2部の実践編はDIYリフォームアドバイザー資格認定講座対応の公式テキストで、DIY型賃貸、道具・工具の基礎知識、DIYに使う材料と資材、DIYリフォームの実践、住宅メンテナンスの基礎知識の5章で構成。

第3部の資料編は国土交通省の「DIY型賃貸借ガイドライン」「インスペクションガイドライン」とDIYリフォーム用語集となっています。

DIY型リフォームに関する幅広い基礎知識とDIY型リフォームの先進国の事例等も満載されており、DIYリフォームアドバイザー資格取得を目標とされる方ばかりではなく、お住まいを無垢材や自然素材を多く使い、より快適な住空間をつくりたい方には必読の書籍です。



DIYリフォームアドバイザー
資格認定講座公式テキスト
B5版 320ページ
トソー出版
2018年2月初旬より
全国の書店で発売!

Information

DIY型リフォームの啓発・普及とDIYリフォームアドバイザーのスキルアップを目的に季刊誌「MU-KU」を創刊しました。会員の皆さま方とともに考え、向上していこうと思います。ご愛読のほどよろしくお願い申し上げます。

発行人 若菜 幸子

MU-KU
DIYリフォーム情報誌 創刊号
2018. Spring
2018年1月1日発行(年4回発行)

<発行>一般社団法人住環境教育協会
広島市中区大手町2-5-11
NPO法人住環境デザイン協会内 〒730-0051
TEL 082-241-5707 e-mail info@juu-kyoiku.com
FAX 082-241-5645 URL www.juu-kyoiku.com